

平成24年度全国学力・学習状況調査結果について

H24.8.8 秋田県教育委員会

概 観

- 平成19年度以降、連続してたいへん良好な状況にあるという結果を得ることができた。これは、家庭・地域・学校・大学等が、それぞれの役割と責任の下で子どもを育てようとする、長年にわたって培ってきた本県の教育的風土とともに、「秋田の知恵と力」の総がかりの成果であると捉えている。
 - ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
「秋田わか杉っ子 学びの十か条」
 - ・各学校における授業改善の努力と一人一人へのきめ細かな指導
「一人一人の学力を伸ばすあきたの学校～5つのエッセンス～」
 - ・家庭や地域の教育力と協力
 - ・大学との協力・連携
- 県教育委員会では、この6年間の調査結果により、これまで歩んできた方向性や施策・事業等の有効性について、一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校ごとに実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果があったと考えている。
- 個別にデータをみると課題もある。今後、検証改善委員会を設置するなど詳細な分析を進め、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について検討し、教育における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていきたい。
- 今後も、本県の財産である教育的風土を大切に、教育を一層充実させていくために、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「教育立県あきた」を目指して取り組んでいきたい。

調査結果の活用

- 本年度の学力調査は、平成22年度と同様、抽出調査と希望利用方式の2本立てになったが、本県の参加率は100%であった。県教育委員会では、インターネット上で、自己採点結果の集計・分析をするためのシステムを構築し、提供している。既に、各学校においては、抽出調査対象校であるかどうかにかかわらず自己採点をし、課題を明らかにしてその改善のために取り組んでいるところである。また、本調査を受けた学年の児童生徒に対しては、年度末までに課題となっている部分を確実に改善させた上で、進学・進級させることが大切であり、9月以降、改善のための方策を一層具体的にして取り組むことになる。
- 県教育委員会では、今回の結果とこれまでの結果を併せて、成果と課題を明確にし、調査の活用による指導改善・充実のための取組を進めていくことになる。特に、教育における検証改善サイクルの確立については、国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えたサイクルの確立に取り組んでいる。具体的には、全国学力調査で課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握していきたい。また、高校入試においても、「活用」に関する力が把握できるような問題を作成し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆ 概 要

- 全国の平均正答率を、小学校では各教科で5ポイント以上、中学校では各教科で4ポイント以上上回っており、良好な状況である。
- 小学校・中学校の国語、算数・数学及び理科のほとんどの問題において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 課題として取り組んできたB問題については、平均正答率で全国の状態を大きく上回る傾向にあり、知識・技能等の活用に重点を置いた授業改善が徐々に進んできていると判断できる。また、学年進行とともに学力を一層伸ばすことについても、良好な結果が示されている。
- 正答数分布は、全国に比べ正答数の多い層が厚く、反対に正答数の少ない層は薄くなっている。
- 無解答率は、国語、算数・数学及び理科ともにほとんどの問題で全国平均以下となっている。小学校では1問を除いたすべての問題で、中学校では7割以上の問題で、全国が無解答率の半分以下となっている。
- すべての児童生徒に定着が求められ、正答率が十分でない問題については、早急に指導の改善を図り、一層の向上を目指す必要がある。

小学校6年生平均正答率

教科	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	86.9 (+5.3)	89.3 (+6.0)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国語B(活用)	63.0 (+7.4)	84.8 (+7.0)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算数A(知識)	79.5 (+6.2)	83.2 (+9.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算数B(活用)	64.0 (+5.1)	59.0 (+9.7)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)
理 科	68.4 (+7.5)				

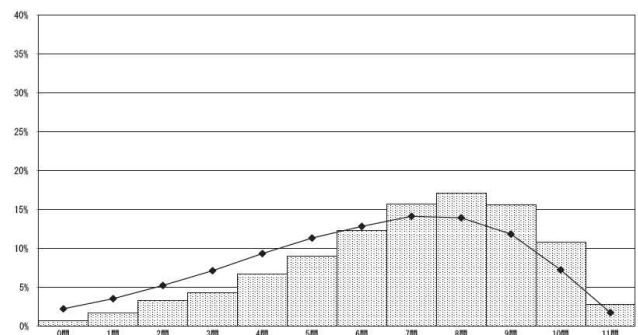
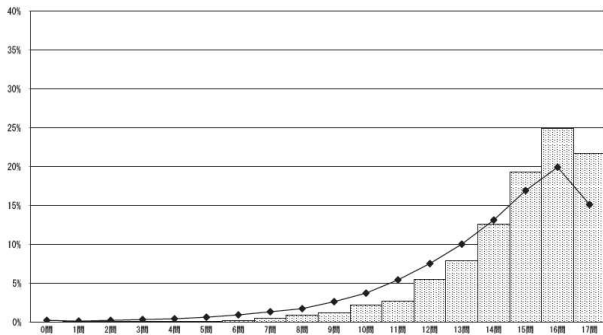
中学校3年生平均正答率

教科	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	79.7 (+4.6)	79.8 (+4.7)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国語B(活用)	70.3 (+7.0)	71.7 (+6.4)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数学A(知識)	67.4 (+5.3)	70.8 (+6.2)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数学B(活用)	56.7 (+7.4)	50.0 (+6.7)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)
理 科	56.1 (+5.1)				

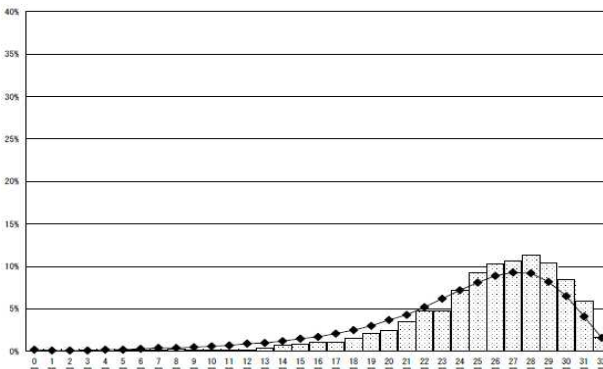
* 平成24年度、平成22年度については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されていますが、この表の数値はその中央値を示しています。

各教科の成果と課題

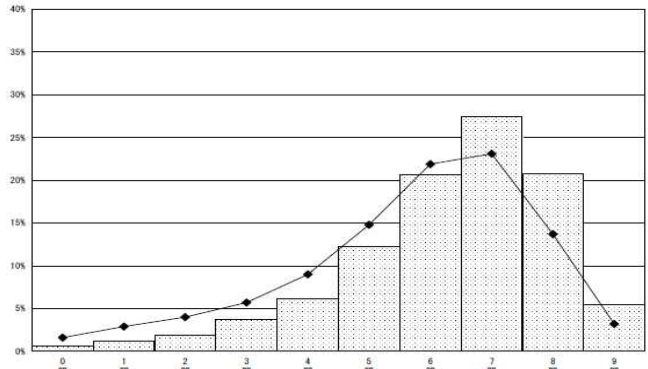
【国語】（棒グラフ：秋田県 折れ線グラフ：全国）
 <小学校国語A> <小学校国語B>



<中学校国語A>



<中学校国語B>

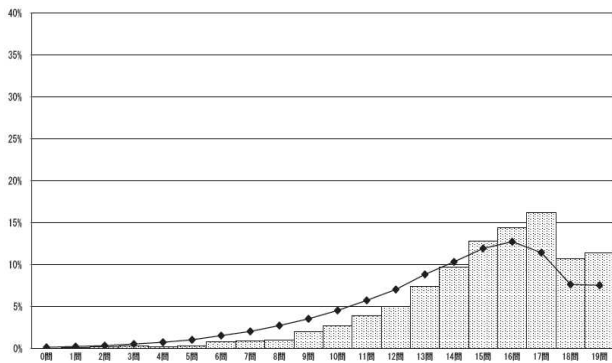


- 全国平均との比較では、特にB問題の「読む能力」において大きく上回っている。
- すべての問題において無解答率は全国平均を下回っている。
- 小学校では「目的や意図に応じて必要な事柄を整理して書くこと」「事実を基にして自分の考えを書くこと」に、中学校では、「自分の考えを具体例を挙げて書くこと」や「話し言葉と書き言葉の違いを理解し適切に使うこと」に課題がある。

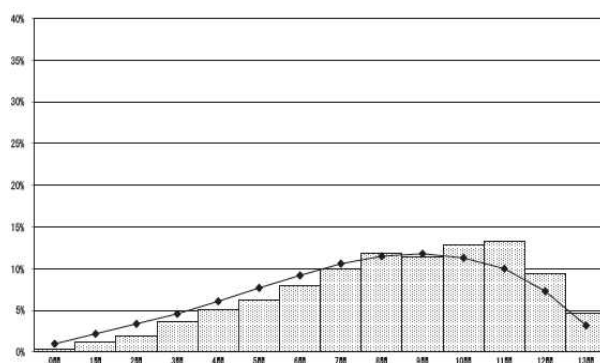
●課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	A 2	68.1	65.2	話の内容を聞きながら書いた質問のねらいを適切に説明する	ねらいを明確にして質問をする
	A 7	59.2	43.2	新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理して一文にまとめる	目的や意図に応じて、必要な事柄を整理して簡潔に書く
	B 3 四	51.4	37.7	二つの記事の内容を結び付けて読み、理由となる事実を基にして自分の考えを書く	複数の情報を結び付けて読み、事実を基にして自分の考えをもつ
中学校	A 3 二	45.1	40.4	「まるでよく熟した夏ミカンだ」に使われている表現技法を書く	比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する
	A 4 二	55.4	47.1	「生徒会活動（小学校…児童会活動）」という書き言葉を話し言葉に直して書く	話し言葉と書き言葉の違いを理解し、適切に使う
	B 1 三	23.7	19.7	どのような言葉の使い方をしたいのか具体的な例を挙げて書く	相手の発言を注意して聞き、具体例を挙げて自分の考えを書く

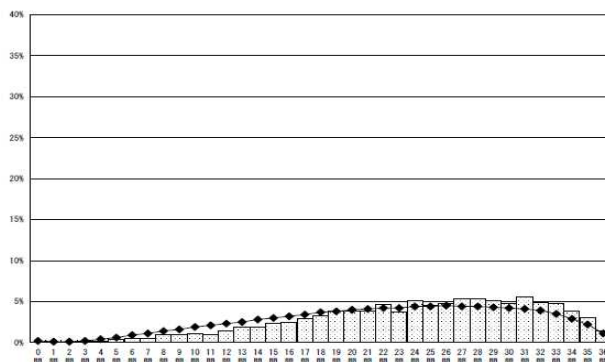
【算数・数学】 (棒グラフ：秋田県
 <小学校算数A>



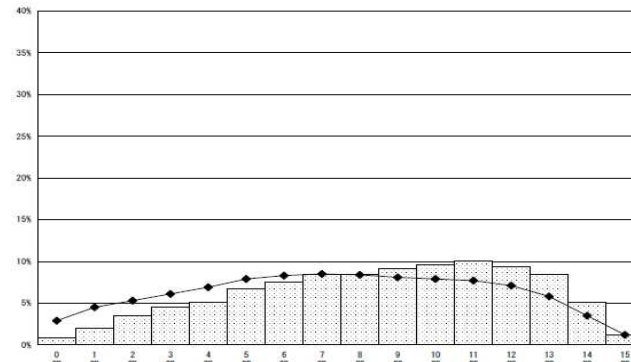
折れ線グラフ：全国)
 <小学校算数B>



<中学校数学A>



<中学校数学B>

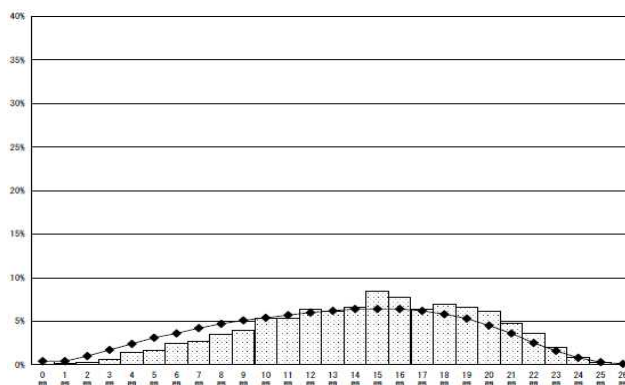
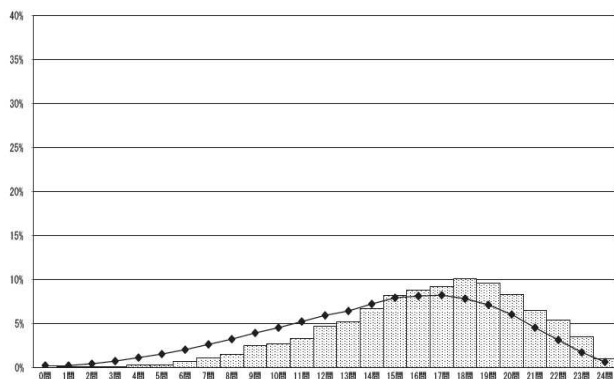


- 5年間の経年比較から、「活用」に係る力がついてきている。特に数学B（活用）については連続して、全国平均との差が広がっている
- 算数では、場面と図を関連付けて数量の関係を理解することや、必要な情報を用いて判断し、その理由を記述することに課題がある。
- 数学では、図形についての理解や、選択肢の中から解答を選んだ理由を数学的表現を用いて説明することに課題がある。

● 課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 3 (1)	37.8	34.0	赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、二つのテープの長さの関係を表している図を選ぶ	場面と図とを関連づけて、二つの数量の関係を理解している
	B 2 (2)	30.2	26.8	中型の跳び箱を70cmの高さにできるかどうかを判断し、そのわけを書く	必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を記述できる
	B 5 (3)	34.7	23.3	示された表から、合計の人数を基にした乗れる人数の割合は、男子と女子ではどちらの方が大きいか判断し、そのわけを書く	表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述できる
中 学 校	A 6 (1)	42.0	43.6	三角定規による平行線の作図について正しい記述を選ぶ	同位角が等しければ2直線は平行であることを理解している
	A 6 (3)	66.0	66.8	与えられた三角形と合同な三角形を選ぶ	三角形の合同条件を理解している
	B 1 (2)	12.0 無解答率 5.1%	9.9 無解答率 4.7%	2つの人工衛星の軌道の長さの差を求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる

【理科】 (棒グラフ：秋田県 折れ線グラフ：全国)
 <小学校> <中学校>



- 小問別の正答率は、中学校の2問を除いて、全国平均を上回っている。
- 主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題に区分すると、平均正答率はそれぞれ全国平均を上回っている。
- 無解答率は、全ての問題で全国平均を下回っている。
- 観察・実験の結果を基に考察することに課題がある。さらに中学校では、観察・実験の結果等の数値を処理することにも課題がある。
- 観察・実験に用いる器具の適切な操作技能の定着に課題がある。

区分別集計結果

	小学校		中学校	
	平均正答率	国との差	平均正答率	国との差
主として「知識」に関する問題	79.0	+9.9	61.4	+5.3
主として「活用」に関する問題	64.0	+6.4	52.8	+5.0

●課題の例

	問題番号	平均正答率		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	2(5)	40.3	32.1	スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選び、選んだわけを書く	植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述できる
	4(1)	32.3	27.3	方位磁針の適切な操作方法を選び、その時の太陽の方位を書く	方位磁針の適切な操作方法を身に付けている
	4(5)	21.8	16.9	天気の様子と気温の変化とを関係付けてグラフを選び、選んだわけを書く	天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析して、その理由を記述できる
中学校	2(1)	41.8	44.3	電圧が1.2Vのときの電流計の図から、電流の大きさを読みとり答える	電流計の読み方の技能を身に付けている
	2(6)	13.8	11.1	白熱電球とLED電球をそれぞれ1時間使用する場合に、消費する電力量の差を求める式を書き、電力量の差を求める	電力量を理解している
	3(3)	13.9	10.4	地層観察の結果から、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、適切な回数を選び、その根拠を説明する	地層などの知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明することができる

児童生徒質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 生活習慣、学習習慣など、全体として望ましい習慣が定着していると考えられる。
- 本県の授業スタイルが児童生徒主体であることが示されている。
- 学習内容の活用について意識している児童生徒の割合が高い。
- 中学生は、図書館の利用回数が全国平均に比べて低い。

本県の結果と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生活習慣	普段（月～金曜日）、何時ごろに起きますか。	(7時より前に起きる) 93.4	+14.8	(7時より前に起きる) 88.2	+18.2
	普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか。	(10時より前に寝る) 55.1	+ 9.1	(11時より前に寝る) 41.5	+ 7.6
	◎平成19年度から連続して90%以上を示している主な項目 ・朝食を毎日食べている ・毎日、同じくらいの時刻に起きている ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある				
学習習慣	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 96.0	+10.4	(1時間以上) 75.1	+ 8.7
	家で学校の授業の復習をしていますか。	87.2	+37.0	80.4	+34.9
	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	74.9	+16.9	56.8	+13.9
授業	普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。	87.0	+ 5.3	88.6	+11.7
	普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。	85.3	+ 8.4	81.4	+20.5
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	73.7	+12.4	69.8	+19.4
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	76.0	+ 9.9	46.2	+ 9.7
	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	73.0	+11.1	48.0	+ 9.6
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。	66.7	+ 8.1	60.5	+14.9
	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか。	88.3	+ 7.6	77.5	+ 9.6
	理科の授業で観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか（考察していますか）。	85.2	+ 8.1	70.3	+13.8
その他	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	78.2	+15.0	45.1	+ 7.4
	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか。	(週に1回以上) 19.1	+ 1.3	(週に1回以上) 6.9	- 2.0

学校質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 本県ではほとんどの学校が一斉読書に取り組んでいる。
- 補充的な学習の指導については、小学校より中学校の方が行った割合が高い。また、小学校では、理科の指導として補充的な学習の指導を行った割合が全国に比べて高い。
- 国語の指導では書く習慣を付ける授業を、算数・数学及び理科では実生活における事象との関連を図った授業を行った割合が、全国に比べて高い。
- 家庭学習の課題の与え方については、学校全体で組織的に取り組んでいる。
- 教科の指導内容や指導方法について、小中の連携が行われている割合が高い。

本県の結果と全国との差（「よく行った」「どちらかといえばよく行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目		小学校 6 年生		中学校 3 年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
「朝読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。		(週に1回以上) 99.0 + 9.0		(週に1回以上) 92.7 +10.6	
教科の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか。	国 語	70.1	+ 2.3	88.0	+13.3
	算数・数学	94.8	+ 6.5	95.5	+ 8.5
	理 科	65.8	+15.2	79.3	+ 3.2
国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行いましたか。		94.9	+ 5.1	98.5	+ 6.9
算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。		74.3	+11.2	76.4	+20.9
理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。		85.5	+11.3	91.2	+ 8.0
教科の指導として、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。	国 語	97.8	+11.7	88.1	+11.0
	算数・数学	99.0	+13.4	92.5	+14.5
	理 科	82.5	+21.2	82.3	+ 8.2
教科の指導内容や指導方法について、小中連携（教師の合同研修や交流、教育課程の接続）を行っていますか。		93.9	+16.4	92.6	+14.4

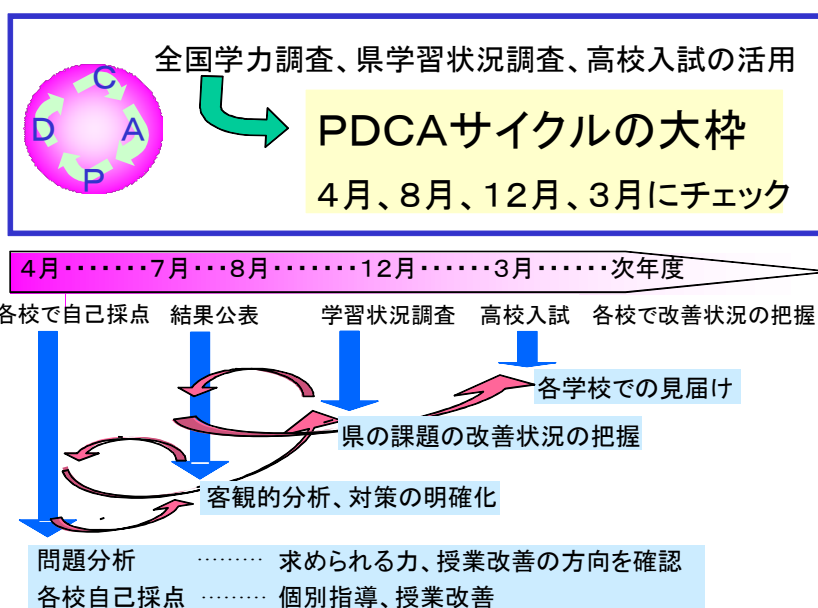
全国学力・学習状況調査の活用

- ほとんどの学校が、平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子や県の学習状況調査結果の分析を、具体的な教育指導の改善に活用している。
- 大多数の学校が、調査結果について保護者や地域の人たちに対して公表や説明をしている。また、学力向上の取組について保護者や地域の人たちに対して働きかけを行っている。

◎学校質問紙調査より（「はい」と回答した割合）

質問項目	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行いましたか。	99.0	+13.5	98.6	+18.8
平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果を、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.0	+17.8	94.1	+20.0
平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をしましたか。	93.8	+28.9	84.0	+26.2
平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や地方公共団体における独自の調査等の結果や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。	90.7	+19.3	76.3	+13.0

- 県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立を推進し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていきます。



県教育委員会の取り組みについて

☆ 学力向上関連事業等

◆ これまでの事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査事業（H14～）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～22）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育はH18～）
- 科学する心を育む夢プラン事業（H12～20）
- 「英語とコンピュータが使える秋田の子ども」育成事業（H16～18）
- 学校・大学パートナーシップ事業（H17～19）
- 夢創造！！チャレンジ推進事業（H20、21）
- 読解力向上のための指針作成（H20～）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 「わか杉思考コンテスト」の実施（H20～22）
- 秋田わか杉っ子 学び充実事業（H20、22）
 - ①検証改善委員会…全国学力・学習状況調査の結果分析と提言
 - ②学力向上県民フォーラムの開催
- 先端科学体験事業（H21）
- チェンジ秋田・教育プロジェクト事業（あきた教育GP）（H21）
- 小学校まなび・ふれあい充実事業（H21～23）
- 小学校外国語活動教員集中5か年研修（H21～）
- 学力向上推進事業（H23～）

◆今年度の事業等（一部新規）

- 少人数学習推進事業
 - ・少人数学級を小学校4年生まで拡充（H23に小学校3年生まで拡充）
- 小・中連携いきいきスクール事業（新規）
 - ・小規模小学校（6、7学級程度）へ臨時講師を1名加配することにより「教科担任制を生かした教育課程の編成」や「中学校入門期における小学校教員の乗り入れ授業（TT）」を可能とする
- 学力向上推進事業
 - ①学習状況調査事業
 - ②理数学力向上推進事業
 - ・学校訪問指導
 - ・学力向上支援Webサイト活用
 - ・理科支援員配置
 - ・観察・実験指導力向上講座（教員対象）
 - ・理数探究体験セミナー（児童生徒対象）
 - ③あきたの教育力発信事業（新規）
 - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
 - ・学力向上フォーラムの開催（平成24年11月11日）
 - ④キャリア教育推進事業（新規）
- あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業（新規）
 - ・国際教養大学との連携等による教員研修を実施して、小学校における外国語活動の充実を図る
 - ・小・中・高の連携により、英語によるコミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成を目指す